

『使命 & 心得 & 生涯書生』 ～ 『真摯なる姿勢』 ～

2026 年 7 月 21 日『順天堂大学 医学部医学系研究等 倫理委員会』に出席した。【純度の高い専門性と社会的包容力のある倫理委員会】であった。【『親切とは行動すること』&『いろいろな意見に耳を傾けたい』】（新渡戸稲造：1862-1933）の復学となった。筆者は『病理医』として 毎週『病理組織診断業務』を行なっている。『森を診て木の皮まで診る＝丁寧な観察力』の修練でもある。

『病理組織診断』は『風貌を診て、心まで読む＝人生の根幹を追求する』で、【2001 年の『癌細胞の病理と人間社会の病理の類似性＝生物学の法則＋人間学の法則＝『がん哲学』の提唱】に繋がった。2003 年に『日本病理学会総会と日本癌学会総会』で『がん哲学』の講演したものである。2008 年 1 月には、順天堂大学病院で【『病気』であっても『病人』ではない社会の構築】を目指して『がん哲学外来』が開設された。病院外では、2008 年 9 月 27 日『横浜がん哲学外来』と 2008 年 10 月 26 日『東久留米がん哲学外来』がスタートされた。そして、現在は全国展開されている。『不思議な人生の流れを痛感する日々』である。

【病理医の 2 つの使命】

- 1) 『学問的、科学的な責任』で病気を診断・治療する → 学者的な面
- 2) 『人間的な責任』で手をさしのべる → 患者と温かい人間としての関係

【病理医の 3 つの心得】

- 1) 世界の動向を見極めつつ 歴史を通して今を見通せるようになる。
- 2) 俯瞰的に『病気』の理を理解し『理念を持って現実に向かい、現実の中に理念』を問う人材となる。
- 3) 複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む『具眼の士』の種蒔く人材となる。

【病理医は生涯書生】

医学的側面だけでなく、『生き方』や『価値観』にまで深く考える心得

筆者の【早稲田大学エクステンションスクール中野校 ジャンル 人間の探求 講座『がんと生きる哲学：医師との対話を通して「がん」と生きる方法を考える』】を受講された方が 記念誌【『がんと生きる哲学：『使命と役割に気づく』～ 逆境からの学び ～】を制作中である。まさに『生きている限り、人には使命があるの実践』で、皆様の『真摯なる姿勢と速効性と英断』には、ただただ感服する。